

☆目次☆

- ◆p1 フェイスシート・子どもイメージ・母親イメージ
- ◆p2～7「妊娠・出産」～「母親の後悔」の集計結果
- ◆p8 トークセッションまとめ
- ◆p8 サークル情報・編集後記

育自 ネットBOX



上尾グラン育自ネットワークは、母親発「子育てたいへんアンケート」（認定NPO 法人彩の子ネットワークが実施）の実行委員会に参加協力しています。乳幼児を育てている母親たちで会合を持って、「私はこう思うけど、あなたは？」とリアルな実感からの言葉をアンケートの質問項目にすることをしました。

「子どもイメージ」「母親イメージ」「妊娠・出産」「子育て観1・2」「バス問題」「社会」「母親の後悔」「自由記述」の9項目からなるアンケートです。現在 380 人からの回答を得て、分析をし始めたところです。今回の育自ネットBOXでは、380 人の単純集計結果と、結果を見ながら話し合ったことを伝えます。



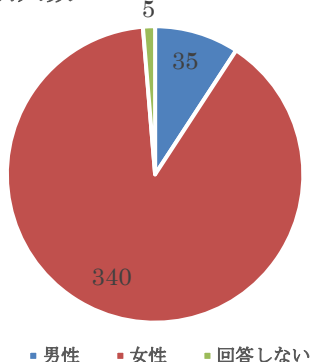
2025年3月30日に、このアンケートを実施するきっかけになった、NHK「クローズアップ現代“母親の後悔”その向こうに何が」（2022年12月放映）の番組を担当した、高橋歩唯さん（NHK報道局社会部記者）と、依田真由美さん（NHK報道局社会番組部ディレクター）、アンケートの監修者の武田（六角）洋子さん（東京家政大准教授）をゲストにした学習会を開きました。

いろいろな立場の方と話せる時間を持てて、私たちの子育てしている社会の実際を考えることができたのではないかと思います。今後も、こうした会合を開いていきたいと思っています。

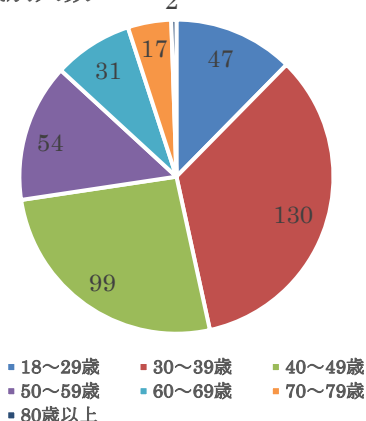
アンケートの結果報告をこの「育自ネットBOX」で読んで、思ったことがあったら、是非、メッセージを寄せてください。あなたの声を聴かせて！

◆子育てたいへんアンケート単純集計結果◆

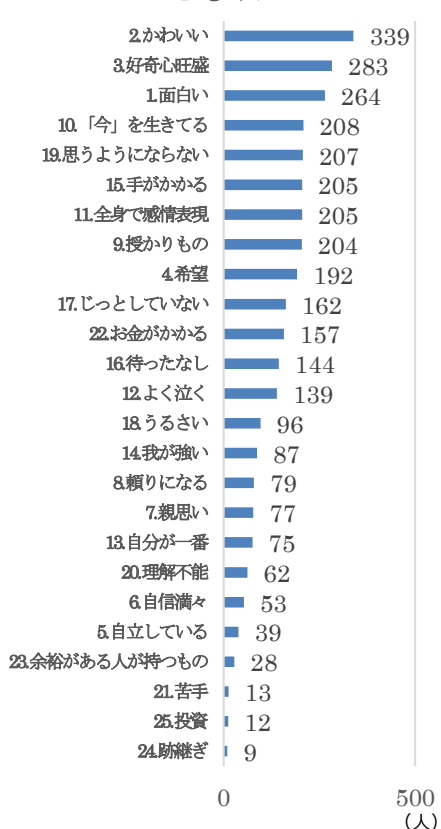
性別人数



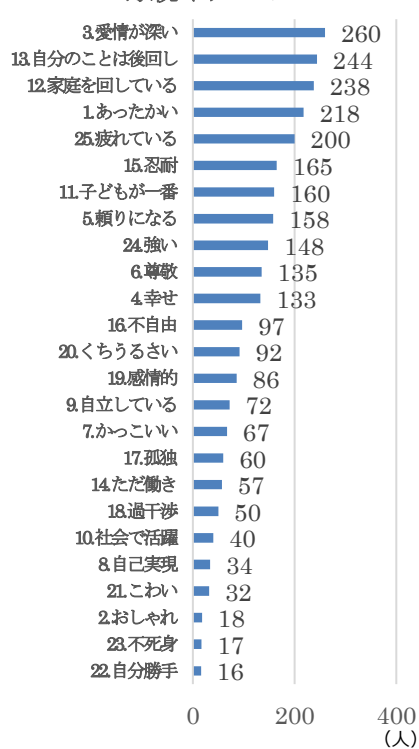
年代別人数



子どもイメージ



母親イメージ



妊娠・出産

この質問が1番なのかな！性のことは大抵に思う人が多い！
それって大事な感覚！未来が明るいかも！

こうであつたらいいなって
多くの人が思っている。

努力では解決できない身体感や気持ちのつらさ

心の底にある不安感・否定感

3. 出産後の性生活は、女性の心身が回復してから開始するのが本当の愛情だ

8. 「お母さんになって嬉しい」と言う未婚の母親が、幸せになれる社会でありたい

1. 妊娠・出産・子育ては、命がけの尊い仕事と誇りに思っている

産み人だけでなく、みんなで見えたらいいな。

15. 我が子の誕生に、私がこの子を守らなくてはという使命感が生まれた

17. 子どもを持ちたいと思ったとき、里親や養子縁組など、自分で産む以外の選択が当たり前にあっている

14. 赤ちゃんが生まれると、日々の食事やトイレすら自分のタイミングでできない

このつらさに多くの人が共感！！

12. 関係をつなぎとめたい不安から、産後すぐの性生活に促されてしまうのは辛いことだ

この性の質問も
上位にあるな。

7. 乳児院などに預けてでも子どもから離れたくないと思うのは、子どもの命も自分の命も、どちらも大事にしたいからだ

「育児期間」のキーワードも受け入れて上位に。

2. 夜中の頻回の授乳で寝不足で、頭おかしくなりそうでも、母親をやめるわけにはいかない

6. 胎動や授乳する感覚がイヤだと感じる母親は、その感覚を大事にしている

11. 妊娠すると、自分の意志とは関係なく身体がどんどん変化し、苦しくても逃げられない

コントロールできる？

18. 子どもを持つタイミングは計画を立ててコントロールするものだ

しなくともいいかな？

16. ふたりの子どもなのに、出産の準備や知識を持つことは、母親の役割としか考えられていない

4. 妊娠中は、日常の行動(食事や生活習慣、仕事、趣味、感情)すべてが、おなかの赤ちゃんに影響を与えてしまうのではと、プレッシャーに押しつぶされそう

5. 新生児とふたりで家にいると、自分たちに何かあっても誰にも気づかれないだろう

半数が
そう思う！
ギリギリはね。

13. 手を尽くしても泣き止まないと、赤ちゃんを抱いている腕から放り出したくなる

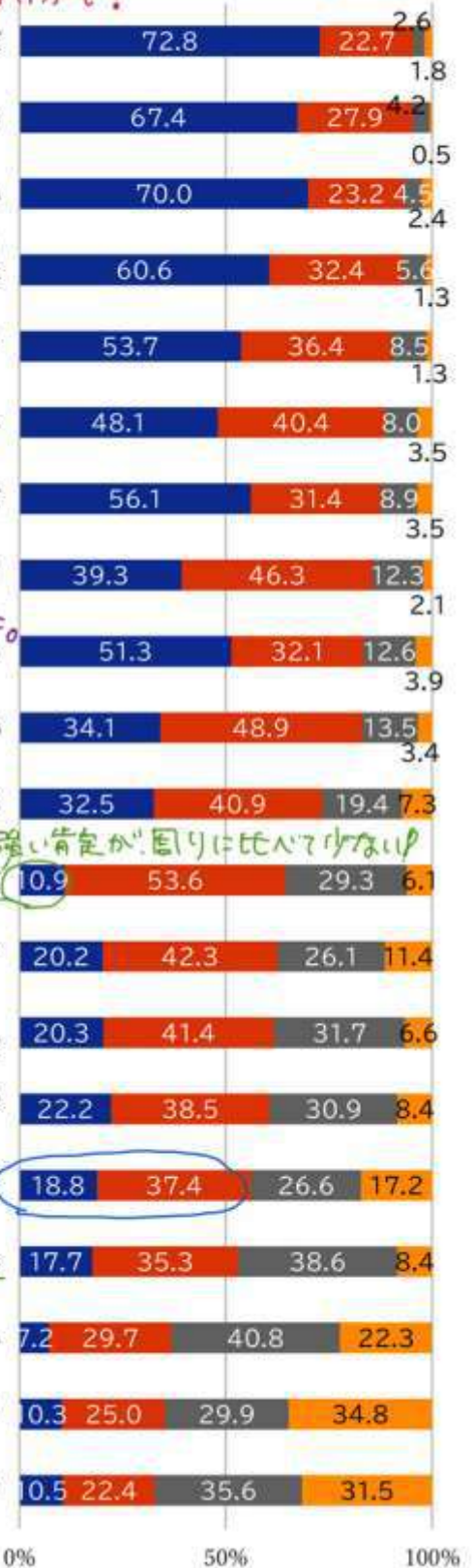
19. 妊娠がうまくいかない時、自分のすべてを否定された気持ちになる

9. 職場では、妊娠出産は歓迎されない

10. 乳児院など、安心できるところにいったん預けて苦しみから逃れたいと思うほど、追い詰められる

20. つわりの時期は安定期前で、職場に妊娠を伝えられず、体調不良でも我慢するしかない

本当は安心して出産にのぞきたい...



■ 大いにそう思う ■ まあそう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

子育て観1

子どもの人権を大切に思っている
子育てする人が増えてきているのでは？

こんな
ありたい
が上位に。

理想の子育ては
こうだけ！

11. 子どものために思っていることも、子ども自身の声を聴かなければ暴力になりうる

12. 子どもが泣いたときには、無理に泣き止ませるより、泣いている気持ちに寄り添いたい

8. 子どもといると、日常の生活のできごとひとつひとつを大事にしたいと思える

6. 親がどんなに忙しくても、自分のことを大事だと伝えてもらっていたら、
子どもは安心して生きていける

3. 親になって、自分が子どもから無条件で信頼してもらえていると感じた

9. 子どもと外出したり、子どもを遊ばせているとき、
親が「すみません」と謝ってばかりなのは、おかしい
16. 人に迷惑をかけない子に育てなくてはならない

1. 子どものイヤイヤに、どこまでつきあったらいいかわからない

13. 子どもの、感情そのままに生きる姿から、自分も感情を大事に生きていいと思える

14. 離乳食で、食べ物を落とされたり投げられたりしたら、怒りたくなる

2. 子どもは、自分の力でやっていこうとするし、必要な時には助けを求めることができる、
社会性がある人たちだ

私たちは、子どもの干渉に気がついていないかも。

4. 他の子どもの成長と比べてしまう目を、自分が持っているのが苦しい

7. 自分がこんなに怒ってしまう人間だなんて、子育てするまで知らなかった

5. 虐待・体罰はダメだと頭ではわかっているが、叩いたり怒鳴ったりしてしまう

体罰容認

10. 叩いてもあとで抱きしめれば、子どもに愛情は伝わる

15. 子どもには、言葉で言ってわからなければ、叩いてでも教えた方がいい



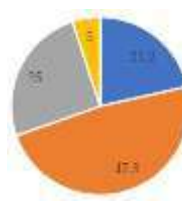
<体罰・虐待の理想と現実>

体罰に関する質問文は、16年前の調査でも同じように聞いています。「10.叩いてもあとで抱きしめれば、子どもに愛情は伝わる」にそう思うと答えた人は、68.7%→23.1%に。「15.子どもには、言葉で言ってわからなければ叩いてでも教えた方がいい」にそう思うと答えた人は、30%→8.2%に減りました。『子育て観1』のトップは、「11.子どものために思っていることも、子ども自身の声を聴かなければ暴力になりうる」は92.9%がそう思うと答えました。子どもの人権を尊重したい気持ちを、昔よりも、今の方がより強く持っているようです。

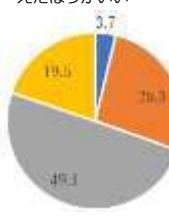
一方で、『子育て観1』の「5.虐待・体罰はダメだと頭ではわかっているが、たたいたり怒鳴ったりしてしまう」は5割弱、『社会』の「17.虐待の事件を聞くと、あれは自分と紙一重の姿かもしれないと思う」にも6割がそう思うと答えています。頭では子どもの気持ちを大事にしたい体罰はよくないと思うのに、実際には叩いてしまうなど、理想と現実が違ってしまい、苦しんでいる母親の様子が伝わってきます。

[16年前結果]

10.叩いてもあとで抱きしめれば、子どもに愛情は伝わる



15.子どもには、言葉で言ってわからなければ、叩いてでも教えた方がいい



■大いに思う ■まあ思う ■あまり思わない ■全く思わない

子育て観2

地域の人々にかかわってもらえる社会に「なりたい」。

①. 3分5分でいいから、ちょっと子どもを見ていてくれる人がいると、本当に助かる

17. 子育てのたいへんを伝えたとき、解決策を示す前に、まずは気持ちを受けとめてほしい

21. 子育てでは、気にかけてくれる人とのつながりが、がんばろうと思う後ろ盾になる

パートナーとは
ツートップでありたいけど...

⑮. パートナーとの子育ては、ツートップの関係でありたい

⑲. 私だって、たまにはひとりで小さいバッグでお出かけしたい

強い肯定が欲しい。
迷ってる気がする...

⑫. 母親が自分の人生をあきらめずに歩いていた方が子どもは嬉しい

7. 小さい子どもを預けて復職する選択をするのは、子どもも仕事も、
どちらも自分の人生にとって大切なことだからだ

15. 男性も、育児休暇を取りたい

⑬. 子育て中は、たまには息抜きをしたい、というレベルではない。息継ぎをしたいのだ

20. 目の前に辛い状態の子どもがいたら、通報する前に、自分が今できることを考える

⑨. よい妻、よい母親である前に、本当はどうしたい？と、自分に何度も問いかけてあげたい

3. 母親としての時間が多すぎて、自分の好きなものから遠くなり、自分自身が薄くなる

④. パートナーとの関係がきつい中で、自分を大事にしようとシングルになることに
一歩踏み出せたら、子どもも安心して生きられる

10. 子どもに接する時間の長さが違うと、母親と父親で、子どもへの関心の持ち方に温度差が出てしまう

22. お互いに初めての育児。何とかやっている自分なのに、ババ育てもやるのか...と負担だ

25. 母親は、強くないといけない、倒れられないという自意識と社会からの圧力を感じている

8. 男性というだけで社会的に背負わされているプレッシャーの大きさは、計り知れないと思う

24. 子どもの離乳食を考えて作るだけで精一杯で、パートナーのご飯まではキャパオーバーだ

11. パートナーに家事や育児を頼むと、やりながらも表情が曇っているのは、
「お前の役割だろ」という無言の圧力だと思う

14. パートナーの機嫌を悪くしないよう、自分が傷つかないよう、言いたいことを飲み込んでしまいがちだ

6. ババは、スマホやゲーム、好きなことを自分のタイミングでやり、自分が一番のままだ

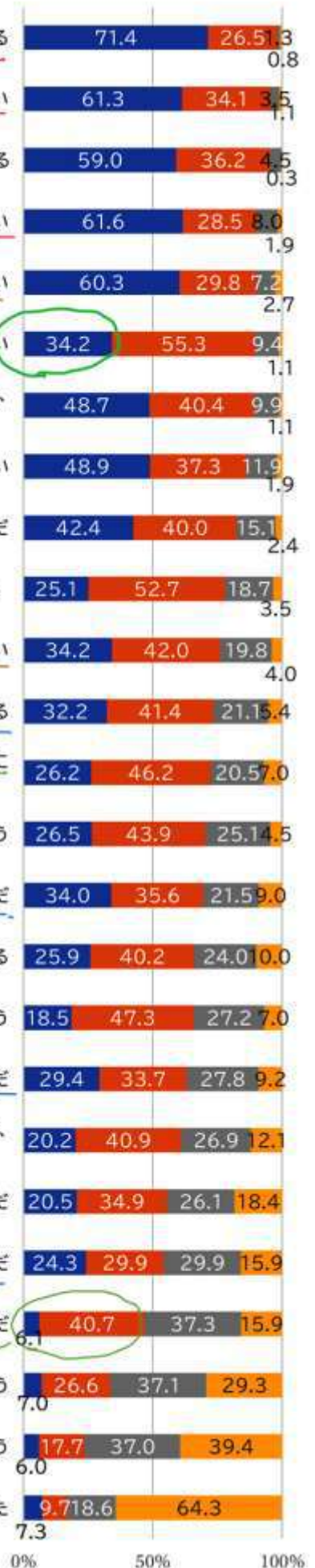
2. 母親は、子育てに影響がないように、仕事をするべきだ
まだまだ半信半疑がこう思っている。

23. 子育て・家事は私(母親)がやるものと、パートナーを遠ざけて、自分からワンオペにしてしまう

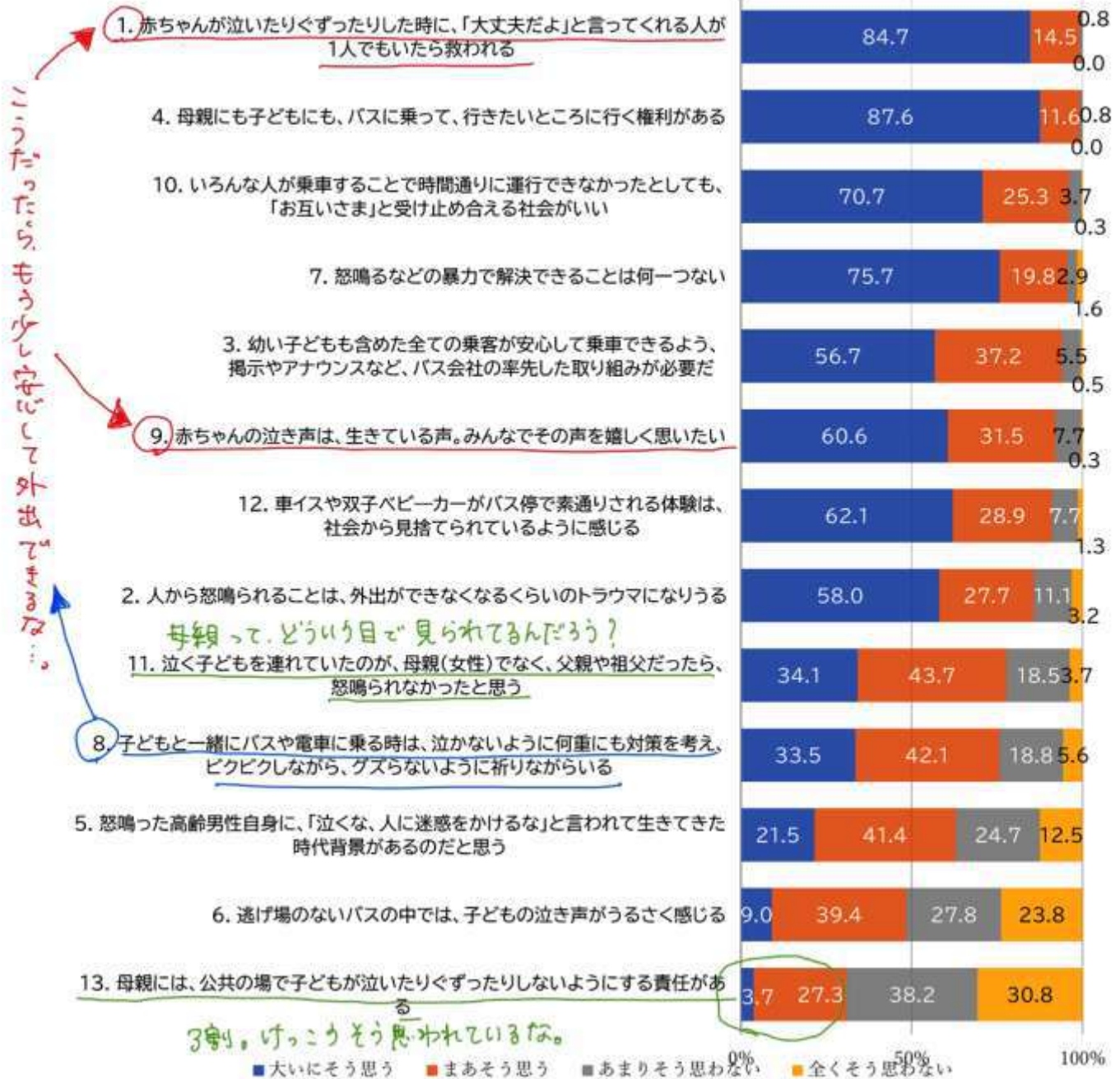
16. 夫が家事をしてくると、「本当は妻(母)がやるべきことなのに」と感じて申し訳なく思ってしまう

「母がやる」の意識が
自分を縛っている?

5. 子どもと一緒に死んでしまったら、楽になれるのにと一瞬でも思った



バス問題



<分析ミーティングでのエピソード① 街の中で声をかける勇気>

ある平日の夕方、マクドナルドに立ち寄った際の出来事。同じタイミングで幼い兄弟と保護者が来店し、弟はぐずって泣いていた。しばらくすると近くに座っていた男性が「うるさいよ!」と大きな声で叱った。すると保護者は弟に手を上げ、弟はさらに泣いた。

それを見ていた私は何もしないまま後悔したくなかったので、近づき声をかけることにした。すると弟は落ち着き、保護者は「遊びたかったんだよね」と寄り添う言葉を口にしていった。帰り際、男性は「あなたのように動けたら良かった。反省している。本当は私も子どもが好きなんだ」と言った。

近くにいた女性は「先程の保護者は子どもをコントロールせず周囲に迷惑をかけている。(しつけられていない)子どもが可哀想だ」と言いに来た。女性の言うことも分かるが、思い通りになるものではない。ただ、二人と話していて、どちらも子どもを大切にしたいという気持ちは一緒なのではないかと感じた。

子どもに対して大人ができることは何だろうか? 子どもは泣いて命を守り成長している。子どもは泣くもの。という認識を共有し、周囲が泣いてもいいよというメッセージを届けられることができればいいと思う。二児の母である私も、周囲の手助けや温かい言葉によって何度も救われてきた。そして、自分と異なる価値観の人を受け入れたり自分の気持ちを伝えたりして、共に生きていく道を探していきたい。(M.K)

社会

これが1位なんだ！男性自身もこう思っているかな？
15. 男性でも悩みを抱えたり、ストレスを感じたりしたときには弱音を吐いていい

13. シングルの子育てでも、ひとりの人の人生として、学んだり働いたり遊んだり選択できる社会がいい

アンケート全質問の中で
「大いに思う」が

1番多かった質問

1. 世代・性別・立場の違い等で分断して終わりにせずに、存在を受け止め合いたい

23. 子どもがいても、いなくても、その人自身の人生を思い切り生きられたら、それがいい

16. 経済的に安定していなくても、子どもは生まれてくるし、生まれた子どもに責任はない

「たいへん！」って言って、
いろんな人とやれたら、
ちょっとおもしろく「おもしろい」？

6. 「子育てたいへん」って、弱音を吐くことは大切だ

11. 育てるのが困難な状況の妊娠で、中絶する決断をしなければならない女性は辛くて苦しい

14. 子どもが小さな時期から、女性も働く社会になりつつあるけれど、それに対応できる制度や人々の意識が追いついていない

4. すべての女性が抱えがちな困難を、シングルマザーはひとりで子育てしながら抱えている

21. 生活保護を受けるのが必要になった時は、ためらわずに受けるといいし、後ろめたく思わなくていい

22. 経済活動よりも、病気・介護・子育て等のいのちのケアが優先される社会でありたい

8. シングルの子育ては、子どもの命への責任(精神的・身体的・経済的、様々な判断)を自分一人ですべて
レジャーがある

ひとりでは人知れず発展して、受け止められない...なんて悲しいこと...
12. 乳児遺棄事件の報道では、妊娠が女性だけの責任にされているように感じる

7. 子育てのたいへんな状況に、「たいへんだね。すごいね。わたしにはムリ」と評価するのではなく、ただ手を貸してほしい

10. 助けを求めても、大変な人との比較で支援制度を使えない現実、さらに気持ちが落ち込み、相談する
気がなくなる

2. 子育てはたいへんだけれど、おもしろさが勝る

18. シングルへの子育て支援制度(児童扶養手当等)はあっても、所得制限を超えると支援も情報も無くなり、何のつながりも持ていない不安な気持ちになる

3. 地域の人々が子ども・子育てに関わりなく、親に子育ての自己責任を求めている時代だ

5. 誰に、いつ、どんな理由でどんな暴力を、どの程度行使するか、そのすべては暴力を振るう側が握っている

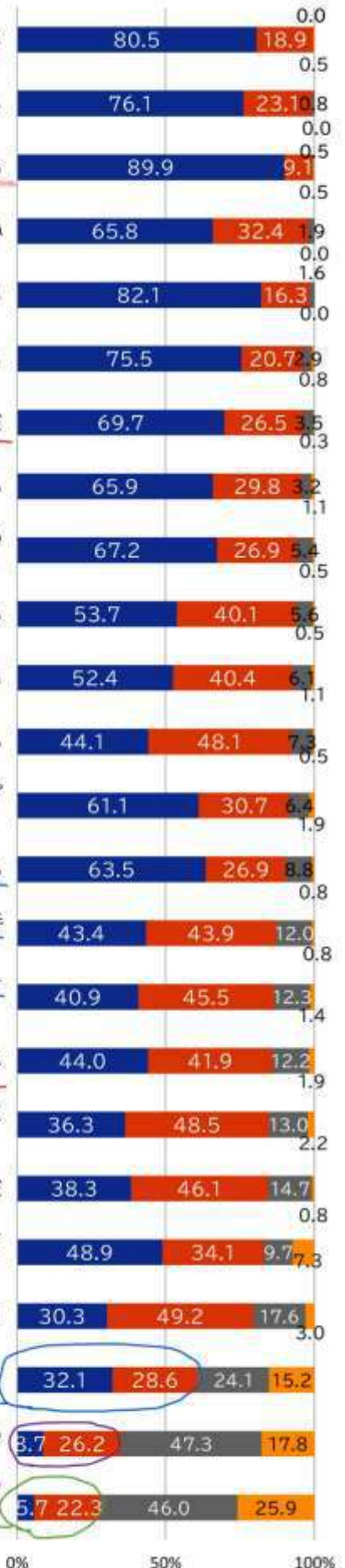
9. DV等の暴力は、自分の気持ちを聴いてもらえた経験がなく、言葉にできない中で起こっていると思う
6割が、自分も
統一重と感ってる!!

17. 虐待の事件を聞くと、あれは自分と紙一重の姿かもしれないと思う

20. シングルマザーと共働きのワンオペ育児は、大変さは同じだから、学校等の役員はシングルマザーも
平等にやるべきだ 3割がそう思う。厳しいなど
感じてる...

19. こんなに、子どもや子育て中の人が優遇されている時代はない

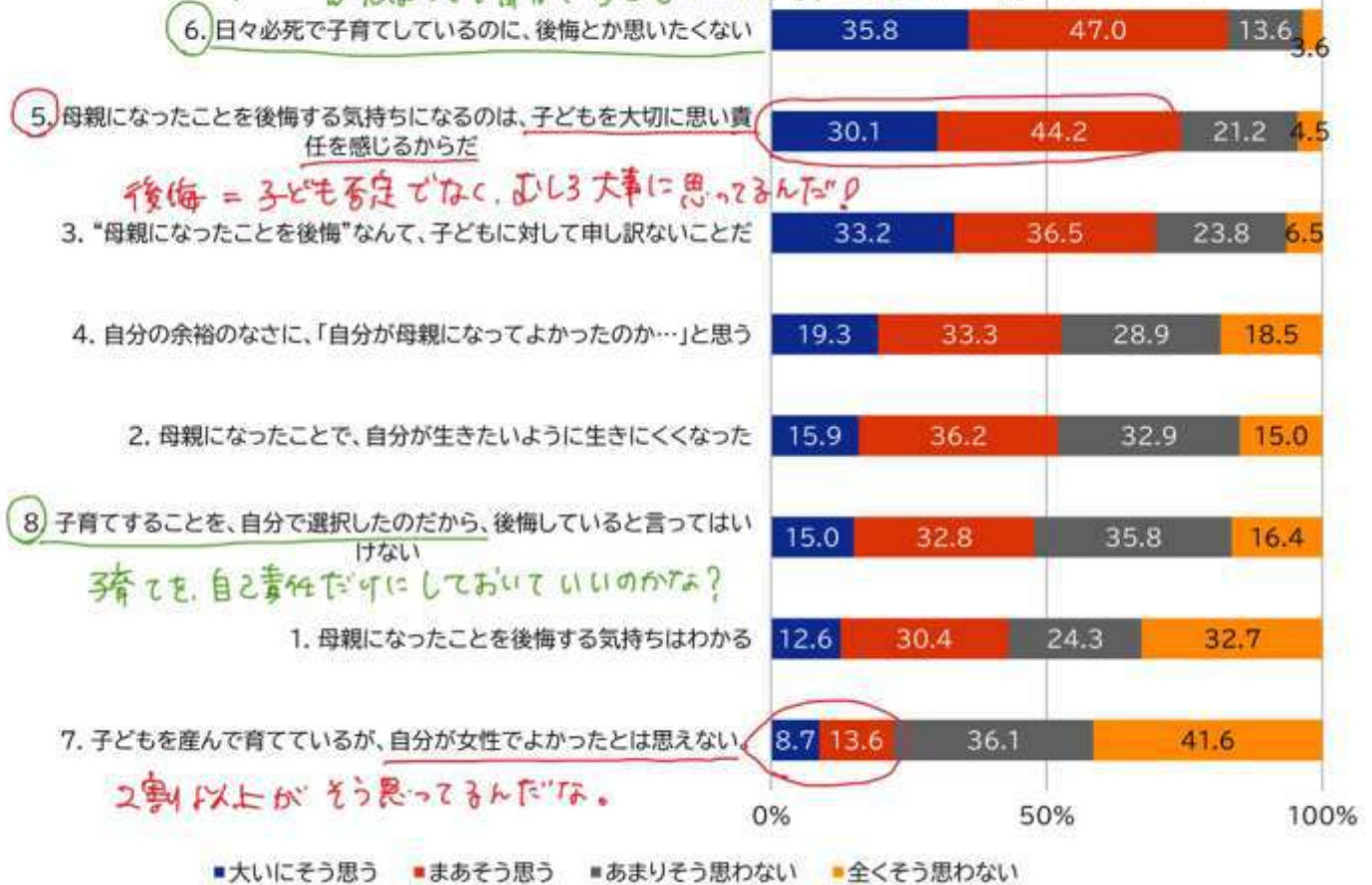
本当に必要な子育て支援って
なんだろう??



母親の後悔

これはどんな気持ちだろう。

がんばってる自分や子どものことを否定するように思えるのかな…?



<分析ミーティングでのエピソード② 自分で背負いすぎているのかも…>

保育園での出来事。遊び盛りの子どもは、お迎え後もなかなか帰る気持ちにならず、教室から玄関を出るまでに毎回時間がかかるのが我が家の日常でした。ある日、玄関で私たち以外にも数組の親子が、それぞれ試行錯誤しながら帰る準備をしていると、先生が現れ、「お迎え後は速やかに帰りましょう」と呼びかけました。

その瞬間、私は「怒られてしまった…」と感じ、何も言えませんでした。一方、そこにいた他の親御さんの一人は「そうだよな、早く帰らなきゃね!」と明るく子どもに声をかけていました。この反応の違いは一体何だろう?

私は、先生の言葉を、子どもを早く帰らせない「親」への注意だと捉えたのに対し、別の親御さんは「子ども」への注意として受け取り、先生が親の味方をしてくれていると感じたのではないかと思います。こうして考えてみると、私は子どもの行動に対して、過剰に責任を背負いすぎているのかもしれない。「子どもの行動は全て親の責任」——そんな言葉、人から言われれば嫌なはずなのに、いつの間にか自分自身が「こうあるべき」と信じ込んで、握りしめてしまい、それが「子育てたいへん」の原因になっているのかもしれない。

他人の言動や思考を変えることはできません。しかし、自分の心の中にある「たいへん」のタネに気づき、向き合うことで、少しずつ「たいへん」の中の「楽しさ」を受け止められる瞬間を増やしていけたらと思います。(まる)

<アンケート活動を通して気づいたこと・変わったこと>

アンケートを作成する過程や、結果を見ながら話し合った中で、いろいろな気づきや感想があったり、実際に少しずつ親子・夫婦関係を変えていくことができたりもしています。いくつかのお母さんたちの声を紹介します。

・母親たちが、子育てのこれがたいへん！って声を上げることが、単なるぐちの言い合いでおわるのではなく、社会的な声として届けることができる、何かを変えることができるんだってびっくりして、アンケート作りにしっかり関わろうと思った。話し合う中で、いろいろと、母親はこうしなくてはいけないものだ、子どもはこうあるべきだ、みたいなとらわれから、少しずつほめていけた気がする。

・自分が思ってたけど、口には出さなかった、出していいと思っていなかったことが、たくさんアンケートの質問項目になっていた。こんな風に思うのは自分だけじゃなかったんだ、と救われる思いだった。たくさんのお母さんたちが、このアンケートに触れるといいと思う。

・話し合いの中で、無意識に「母親」がやるべきこと、と思い込んでいたことがたくさんあることに気づいた。「母親」だけがやるんじゃないよね？って思うことは、夫にもやってもらおうと思って、子どもが熱を出した時、夫に仕事を休んでもらい、病院に連れて行ってもらった。なんとかやってこれた夫は、自分でもできるんだってちょっと誇らしげだったし、これから、いろんなことを一緒にやっていける気がした。

・話し合いで、体罰の話題になった。言ってもわからないときは、そんなに強くではないけど、たたいてわかってもらう、ということは必要だと思っていた。でも、話し合いの中で、子どもは、言葉で伝えていけばわかる力がある、という言葉が心に残って、帰って子どもと話してみた。たたかれるのは痛いからいやだ、とはっきり言われて、たたくのはやめた。

・どうしても、子どもに怒鳴ったりたたいたりしてしまうことがある。それをやめたくて、本を読んだり、勉強会に行ったりしているけれど、なかなかやめるのが難しい。でも、アンケートの話し合いに何度か出て、そういう自分の話ができて、否定されずに聴いてもらえる中で、子どもにカッとして怒鳴りそうになった時に、この話し合いの場面が思い浮かんで、怒鳴らなくてすんだことがあった。毎回そうできるわけではないけれど、そのままの気持ちを受け止めてもらえる場があるって、すごく大事だと思った。

アンケート回答
受付中！ →



<子育てたいへんアンケート分析メンバー募集！！>

子育てたいへんアンケートに答えてみませんか？まだ回答を受け付けています。結果をみながら話し合っ、今の子育て環境ってどんななんだろう、どうするともっと子育てしやすい社会になるんだろう、私たち母親は、何ができるだろう。いっしょに考えるメンバーになりませんか？老若男女・子の有無等問いません。下記までお問い合わせください。

<上尾グラン育自ネットワークについて>

上尾グラン育自ネットワークでは、さまざまな活動を行っています。詳しくは、ホームページ等をご覧ください。

- ・AGA「多文化子育てお母さんの会」
- ・ママがつくる子育てサロン「みんなのコッコロ」
- ・「おおきくなってもあそぼうよ！」
- ・「ママぼっちの時間」
- ・着物着付けサークル「着楽会」
- ・「Sei ミーティング」
- ・ふたご・みつごサークル「あげおさくらんぼ」
- ・「ミックスジュース」
- ・小さく産まれた子どもと家族の会「一歩」



育自ネット HP



<編集後記>

子育てたいへんアンケートの中で、強い肯定が一番多かった質問は「子どもは親の所有物ではなく、ひとりの人間である」89.9%でした。しかし、母親に対する期待が大きい私たちの社会では、子どもとの境界を持ちにくくて、子どもにあたってしまいやすい、虐待の関係になりやすいのではないかと思います。母親だけに背負わせないで、母親が背負いこみすぎないで、いろんな人とみんなで子どもを育てることができる社会になっていきたいなと思います。

編集委員

小島みなみ・たお・あおば・佐々木いつほ・
のどか・まさる・三瓶菜々子・ゆうた・森本
亜美・ことや・ゆづる・加勇田久美子・鈴木
玲子・山口直・西川美保・関昌美

企画・編集

上尾グラン育自ネットワーク
代表 鈴木玲子・石原香代子
事務局 上尾市本町 2-13-8 根貝戸団地階 1 階
彩の子ネットワーク事務局内
Tel 048-770-5272 / e-mail: office@sainoko.net